浪江町で偽装除染

今月末で避難解除

スクープ

東京電力福島第1原発事故にともない国が福島県浪江町でおこなっている除染をめぐり、除染不足をごまかす大規模な不正がおこなわれていたことが編集部の調べで分かりました。安倍政権は、同町の避難指示を3月末に解除することを決定しており、その前提となる除染の信頼性が崩れる大問題です。

本田祐典記者

除染したと偽り別の土で数合わせ

環境省、告発うけながら隠ぺい

不正な除染が判明したのは、浪江町上ノ原行政区の水田や畑です。

同町の除染工事は、国直轄除染として中堅ゼネコンの安藤ハザマが幹事社の共同企業体（ＪＶ）が、契約総額約766億円で受注しています。不正な除染は、同ＪＶの1次下請け「陰山組」（郡山市）が昨年2～3月におこなっていました。

不正な除染の手口について工事関係者が証言します。

「農地除染は放射性物質が集中する表土を5㌢など決まった厚さで削り、予定された数のフレコンバッグ（大型土のう）に詰める。しかし、ずさんな作業で汚染土を十分に回収できなかった。そこで別の農地の土を無断で深く削って、その土をフレコンバッグに詰め、数合わせをする『偽装』をした」

いわば「偽装除染」というやり方。その実態は衝撃です。

―上ノ原行政区のある地域で十分に除染できなかった農地は計9000平方㍍超に及ぶ。本来はフレコンバック600袋（1袋は約1㌧）程度が出るはずが、実際の数はおよそ半分だった。なかには除染がほとんどできていない場所もあった。

―偽装したフレコンバッグは、ゼネコンが環境省に報告した分だけで177袋。除染できていない農地の管理番号をつけて町内の「川添南行政区仮置場」に運んだ。

除染のごまかし、農土の窃盗、工事代金のだまし取りなどの問題がある「偽装除染」。日本共産党の馬場績（いさお）町議は、偽装除染が横行した上ノ原行政区について「除染で放射線量があまり減らず、問題になっていた。除染の総点検が必要だ」と指摘します。

おとがめなし

実は、この不正な除染を環境省福島環境再生事務所は把握していました。同事務所の担当者は編集部の取材に答えました。「安藤ハザマから報告を受けている。不適正な指示をしたのはＪＶの1次下請け、陰山組の担当者だった。農地の削りが不十分でフレコンバッグ百七十数袋分の土が不足すると考え、それを補うため2次下請け2社に〝数合わせ〟を指示していた」

工事関係者や福島県労連などから環境省は不正の告発・通報を再三受けていました。

しかし環境省は、事態を把握したにもかかわらず、公表や事業者の処分を行わず隠ぺいしました。調査も安藤ハザマの報告だけで終了し、陰山組の聴取、現地確認などはおこなっていません。ＪＶへの支払いから除外すべき不正な工事費の総額も調査せず、農土を余分に奪われた町民への説明や補償も指導していません。

安倍晋三首相は、手抜き除染が問題になった2013年、「被災者の信頼を裏切るもので許されない」とし、検証と再発防止の徹底を指示。環境省は「不適正除染」の通報内容を公表し、事業者に厳しい処分をするとしてきました。にもかかわらずなぜ、不正を隠ぺいしたのか―。

福島環境再生事務所は「今回の件は不適正除染ではないと認識している。間違いはあったが、除染が足りない場所は安藤ハザマが昨年5月に再施工した（担当者）」とします。

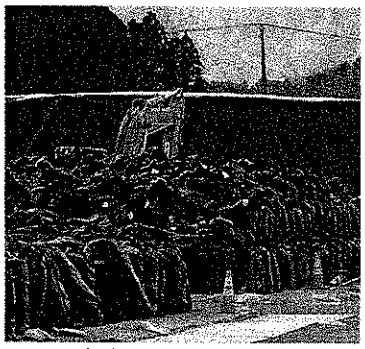
不正はあったが、除染をやり直せば、公表も処分も必要ないという理屈です。

編集部に証言した工事関係者は「たとえ除染をやり直しても、何も無かったことにはできない。偽装のために盗んだ土は仮置き場に混ざって地権者に返すことも困難だ。不正義も是正されていない」と話しています。

県労連が告発

福島県労連労働相談センターの川村滋道所長は「環境省は不正を知りながらうやむやにした。県民の除染に対する信頼を裏切る行為だ」と批判します。県労連は8日、環境再生事務所へ提出した要望書で、偽装工作をあらためて告発しました。

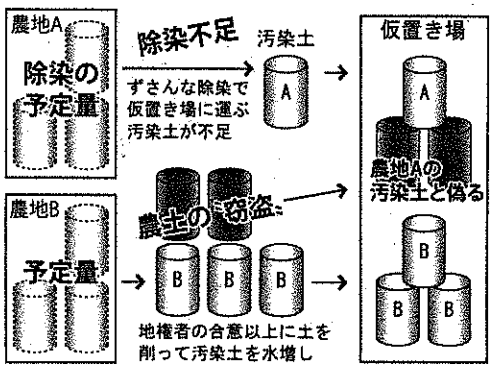
編集部の取材に安藤ハザマは「県労連の指摘を受け、環境再生事務所に報告したのは事実。報告の内容はコメントしない」と回答。陰山組は、期日までに回答しませんでした。



除染廃棄物が入ったフレコンバッグ。3段、4段と積み上げた後、樹脂シートで覆います＝福島県浪江町

農地の除染不足をごまかすため、別の場所の土を詰めたフレコンバッグが大量に運ばれた川添南行政区仮置場＝浪江町

浪江町上ノ原行政区で行われた〝偽装除染〟



3/19 西日本新聞